

柏原市所在遺跡発掘調査概報

—1986年度公共事業に伴う—

1988年3月

柏原市教育委員会

はしがき

柏原市は、毎年大小各種の公共事業を実施しています。市域の大部分が文化財包蔵地であることから、工事に際しては発掘調査を実施し、郷上の歴史の解明に努めています。調査において、私たちの郷土の生いたちを知る上で欠くことのできない重要な遺構、遺物が発見された場合は、「公共事業」民間の「経済開発」を問わず、それらを破壊することなく保護、保存する為に、時に計画の中止や変更を求めることがあります。しかし、公共事業は市民の皆さん的生活環境を向上させる為の事業です。安易に計画の中止や変更をすることは、市民生活と文化財との共存に対する理解が深まつたとはいえ、実行にうつすには多くの問題をかえこむことになります。

文化財は市民生活には不可欠で、深く寄与するものです。そう広く理解されるような問題解決を目指し、文化遺産を生きたまま未来に伝えていくことも「公共事業」の一つであると認識されるよう、これからも努力していく所存です。

今回の調査にあたり、柏原市役所の関係各部課、地元の方々をはじめとする関係各位に、終始絶大なるご理解、ご協力を賜りました。末筆ではありますが、記して謝意を表します。

1988年3月

柏原市教育委員会

例　　言

- 本書は、柏原市教育委員会が昭和61年度柏原市公共事業に伴って実施した、平尾山古墳群、大県南遺跡、大県遺跡の事前緊急発掘調査概要報告書である。
- 発掘調査、本書の執筆・編集は、柏原市教育委員会社会教育課 石田成年が担当した。
- 調査の実施と整理にあたり以下の諸氏の参加、協力を得た。（順不同・敬称略）

石田 博	松井隆彦	竹下 賢	奥川滋敏	北野 重	安村俊史
桑野一幸	森島康雄	寺川 敦	谷口京子	藤中優香	西村 威
松下 修	秋田大介	伊藤芳匡	福岡利彦	今中太郎	近藤康司
西 一晃	井上岩治郎	奥野 清	奥野義夫	谷口鉄治	分才春信
道旗甚威	森口喜信	竹下彰子	出口美佐子	本多富子	岡西万里子
飯村邦子	竹下真紀	及一敏恵	村口ゆき子	横関勢津子	吉居豊子

- 本書で使用した標高はT. P.、方位は注記のない限り磁北である。

目　　次

はしがき

例　　言

目　　次

第1章 平尾山古墳群	86-4 次調査	1
	86-5 次調査	5
第2章 大県遺跡	87-1 次調査	9
第3章 大県南遺跡	86-1 次調査	13

図　　版

第1章 平尾山古墳群

86-4次調査

- ・調査地所在地 柏原市雁多尾畠6339番地 他
- ・調査期間 1986年9月5日～9月20日
- ・調査面積 1100m² / 7111m²

1. 調査概要

本調査は、柏原市市民部生活環境課による市営火葬場建設に伴う埋蔵文化財事前緊急発掘調査として、柏原市教育委員会が計画、実施したものである。

当該地は、関西電力信貴変電所の北200mにあり、標高は310m～330m。対象地の南と北に東方向に派生する2本の小尾根がある。その尾根に挟まれた谷は水田（休耕中）となっている。火葬場建設にあたっては、南側尾根を削平し、その採土をもって谷を埋めるというものであった。北側尾根については一部小さな建物が建つのみで、削平はおこなわれない。

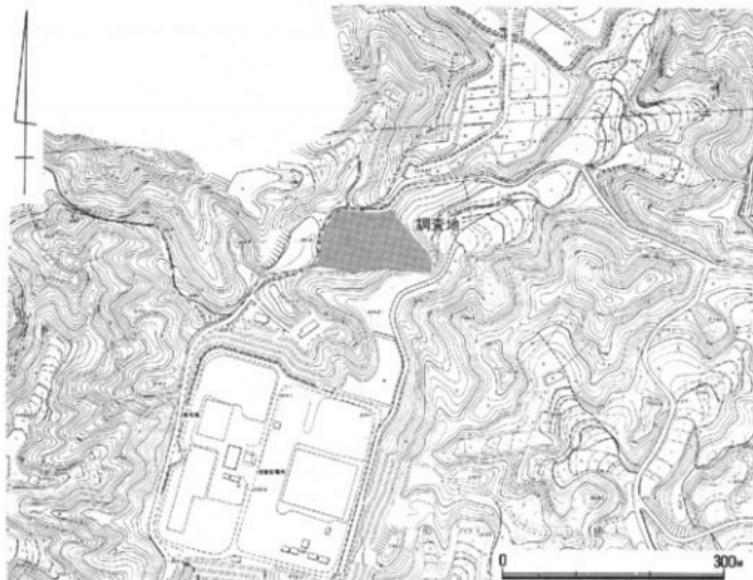


図-1 調査地位置図（方位は真北）

調査としては、まず5月15日から5月22日まで試掘調査を実施した。調査区は南側尾根に3カ所、北側尾根に1カ所設定した（総面積120m²）。その結果、対象地の最高所にあたるA1区では、断面観察により現地表下30cmに薄い炭層を認めた。A2区においては幅130cm、深さ20cmを測る南北方向の構造遺構を検出した。また北側尾根のB1区においては、現地表下20~30cmに人頭大から拳大ほどの花崗岩の集積を検出した（図版一）。いずれの石材も長辺を一定方向（東西方向）に揃えたもので、ボーリング棒での探査により、東から東南方向に広がることが認められた。以上のことから、対象地においては古墳のみならずそれ以外の遺構の存在が想定された為、全面におよぶ発掘調査が必要と判断した。生活環境課との数度の協議の結果、北側尾根については建物等を建設しない、南側尾根については削平を極力少なくするとの回答を得た為、南側尾根について発掘調査を実施することとした。

2. 遺構

調査は南側尾根筋上にトレッチを設定し、上層を重機により、下層を人力により掘削、精査することとした。

層序は表土、茶橙色土、橙白色花崗岩質雑乱土（地山）の順であった。現地表下80~120cmで地山に達する。

遺構として焼土塙を3基検出した。調査区の中央東北寄り、標高約320mの地点で、現地表

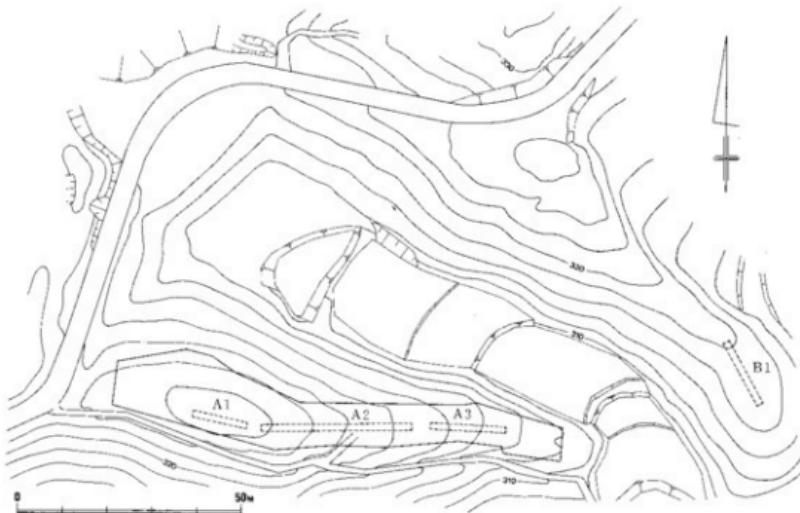
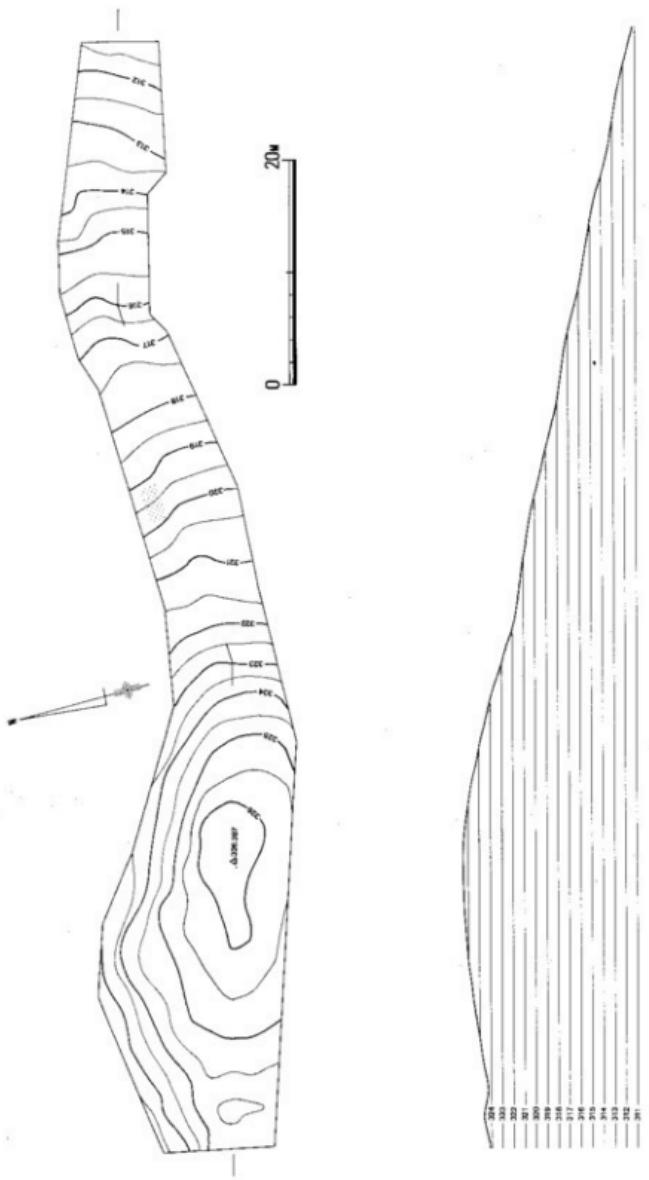


図-2 調査区位置図（破線は試掘区）

図-3 地形測量図（縦部は土坡検出地点）



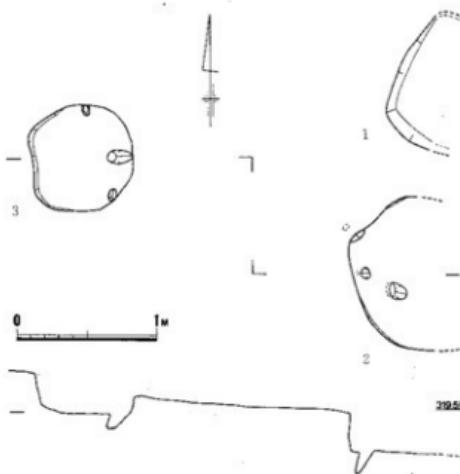


図-4 検出遺構（土塙）

より70cm掘り下がったところで検出した。1は一辺80mの隅丸方形を呈し、深さは20cmを測る。東半は既に削平を受けている。2は直径110cmのやや歪んだ円形状を呈す。深さは25cm。1と同様、東半は削平されている。3は直径75cmの円形状。深さは25cm。1～3とも壁面は直に、また底面も平らに掘られている。両面は火を受けたのであろうか、赤黒く変色し、上質はばさつくような感じである。2、3については棒のようなものをつけさしていたのであろうか、底面に径5～10cm、深さ15cm程度

の穴があく。いずれも東方向に傾く。土塙の埋土は淡赤茶色土である。埋土中からの土器、骨、炭等、遺物の出土は全くなかった。火を受けたように変色、変質していることからこれらの土塙を焼土塙としたが、性格、機能、時期を知る手がかりは何ら得られなかった。

調査区において他に遺構は検出していない。

3. 遺物

遺物として、瓦器が1点出土した。調査区の中央付近、茶橙色土からの出土である。高台部約1/3を残すのみの小さな破片である。前述の土塙と直接的な関係は求められないと思われる。



図-5 出土遺物

以上、調査により当初予測された古墳や古墓等の検出はなかった。当該地においては、上層遺構及び後世の擾乱により改変を受けた可能性が高いものと解される。

86-5次調査

- ・調査地所在地 柏原市太平寺2丁目465番地 他
- ・調査期間 1986年12月13日～1987年1月16日
- ・調査面積 105m²/538m²

1. はじめに

本調査は、柏原市建設部産業課による太平寺山手農道建設に伴う埋蔵文化財事前緊急発掘調査として、柏原市教育委員会が計画、実施したものである。建設される農道は柏原市大字4丁目から信貴山へと至る通称関電道路から大字墓地付近で南に分岐し、標高55mの等高線にそって南下し、柏原市安堂町の山腹に建つ老人ホームの西側で市道と接続されるもので、総延長は約450mである。発掘調査は各年度の工事に先立って順次継続的に行うもので、今年度は2年度次にあたる。調査の対象になったのは太平寺集落の東を走る、南北130mの区間である。対象地も含めた道路建設予定地は、平尾山古墳群の最西端部にあたる。また太平寺遺跡の最東端部とも目されることから、古墳のみならず集落や智誠寺あるいは觀音寺に関連する遺構の存在も予測される。対象地の地目はほとんどが葡萄畠である。

2. 遺構

調査は対象地に9カ所の調査区を設定し、すべて人力により掘削した。

・1区

東西2m×南北6.5mの調査区。表土直下が地山である。地山は調査区北端で西北方向に傾斜する。遺構、遺物ともなし。



図-6 調査地位置図（方位は真北）

・ 2 区

4 × 6 m。表土・耕土、茶色土を除去したところ、径30~60cmの花崗岩を用いた石組みを検出した。東西方向に延びるようである。石の上面は水平に揃う。この石組みが何であるかは確認しえなかったが、出土土器等から近世以降の所産と思われる。

・ 3 区

4 m四方。現地表下80cmで地山に達する。

2区で検出した石組はここではみられない。

・ 4 区

1.8 × 5.5 m。現地表下65~80cmで地山に達する。褐色粘質土（第4層）から土器が多く出土した。その量は9カ所の調査区中、最も多い。遺構は認められなかった。

・ 5 区

2 × 5 m。掘削に際して湧水が著しく、東壁が崩壊した為、地山まで掘削できなかった。

・ 6 区

2 × 5 m。灰褐色粘質土（第4層）以下、人頭大以上の花崗岩を含み、青灰色粘質土（第5層）中には古墳を構築できるほどの大きさの花崗岩が含まれる。第5層以下から、古墳時代とみられる土器片が若干出土している。5区以上に湧水が著しい。地山まで至らない。

・ 7 区

2 × 10m。表土直下、地山である。

・ 8 区、9 区

2 × 5 m。9区は状況としては6区に似る青灰色粘質土（第5層）中に人頭大の花崗岩を含む。遺物も同層からの出土が多い。

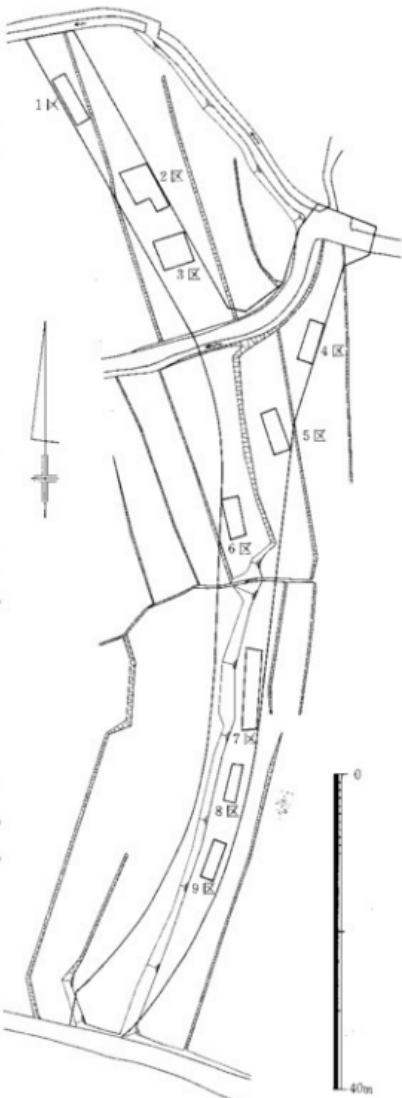


図-7 調査区位置図

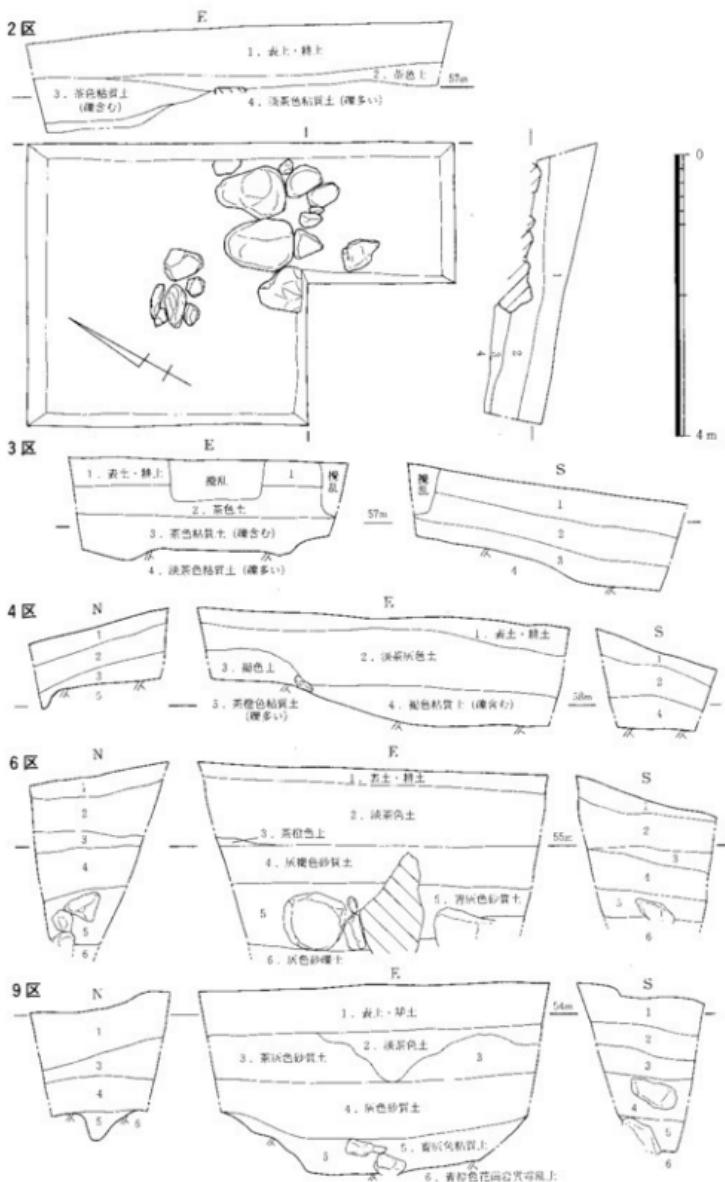
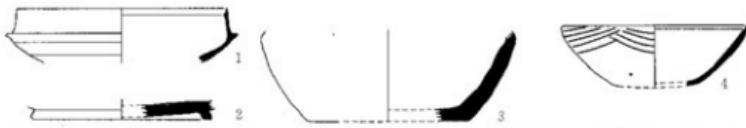
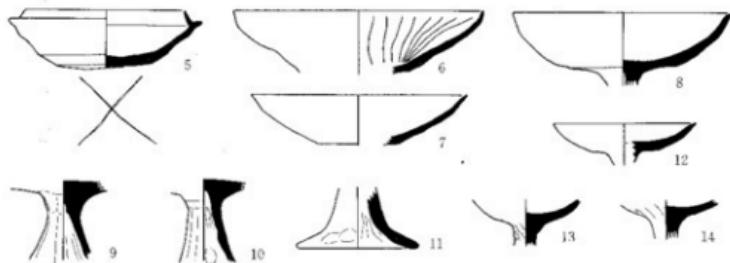


図-8 主要調査区土層図

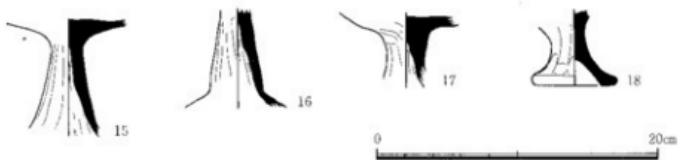
2区第3層



4区第4層



9区第5層



0 20cm

図-9 出土遺物

3. 遺物

量の多い少ないはあるが各調査区から遺物の出土があった。図示したものも含めて細片であるものが多く、残存状況は概して悪い。量としては4区第4層からの出土が最も多く、次いで9区第5層からの出土が多い。器種は土師器高杯が群を抜いて量も多い。但、完形となるものはない。時期的には6世紀代以降の遺物を中心とする。

以上、調査により当初予測した古墳あるいは集落等を検出することはできなかった。葡萄畑の開拓等により早くから地形の変更を受けているものと解される。高杯が多くみられることは対象地の東方の高所に祭祀に関連する遺構の存在を予測させるものである。

第2章 大県遺跡

87-1次調査

- ・調査地所在地 柏原市大県4丁目176
- ・調査期間 1987年3月19日～4月3日
- ・調査面積 34.5m²/76.8m²

1. はじめに

本調査は、柏原市建設部下水道課による平野宮ノ橋準幹線下水管布設に伴う埋蔵文化財事前緊急発掘調査として、柏原市教育委員会が計画、実施したものである。

対象地は生駒山地の西麓に発達した谷口扇状地上にあり、東に高い斜面となっている。標高は東側で21.6m、西側で19.5mを測る。下水道は輝北古神社の参道を東西に走るもので、総延長は約200m。発掘調査は各年度の工事に先立って順次継続的に行うもので、今年度は参道の中央東寄り約50mの区間が対象となった。旧国道170号線から対象地にかけての約100mの区間については、昭和56、57年度に調査を実施している。

対象地から神社下までの50mの区間については本調査に先立ち試掘調査を実施した。しかし既設の水道、ガス管等により攪乱を受けており、遺構の存在する可能性は少ないと判断された。



図-10 調査地位置図（方位は真北）

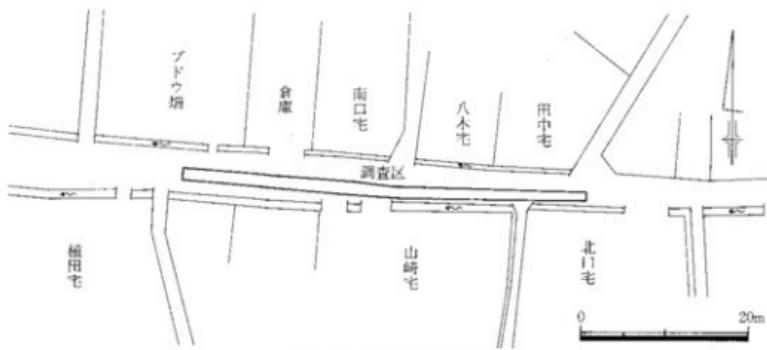


図-11 調査区位置図

調査に際しては安全の為、工事区間に鋼矢板を打ち込んで実施した。大県遺跡はその地形から堆積土が厚く、扇状地の伏流水の湧水も多いことから難陥した。調査は盛土、旧表土を重機により、以下下水管布設底面までを人力により掘削し、実施した。

1. 『大縣・大縣南遺跡』柏原市文化財概報 1983-III 柏原市教育委員会

2. 透構

層序は上から、盛土、茶褐色土、黒青灰色粘質土、暗青灰色砂質粘質土、淡緑灰色粘質土・茶杯褐色砂質土、綠灰色砂質粘質土・青灰褐色粘質土の順である。溝1を検出した暗青灰色砂

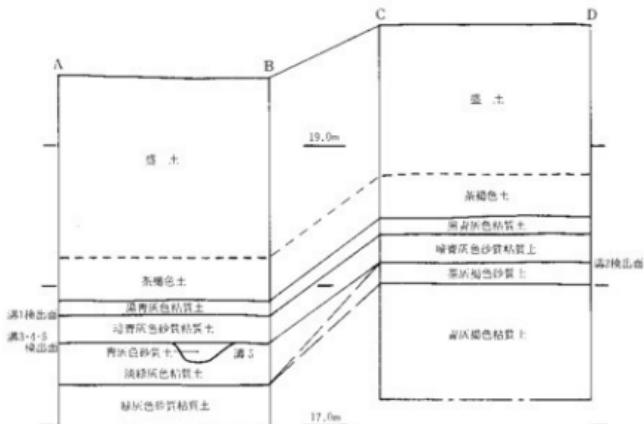


図-12 土層図

質粘質土と、溝2～5を検出した淡緑灰色粘質土・茶灰褐色砂質土がそれぞれ遺構面となる。溝1は暗青灰色砂質土を穿ち、灰色荒砂土を埋土とする。幅は45cm、深さ15cmを測る。S字状に大きくうねり、水流は北流するようである。埋土から土器片が出土しているが、6世紀前半を遡るものはない。溝2は茶灰褐色粘質土を穿ち、暗青灰色砂質土を埋土とする。幅90～135cm、深さ15cmを測る。北流するものとみられる。図-15の石槍はこの溝から出土した。溝3～5は淡緑灰色粘質土を穿ち、青灰色砂質土を埋土とする。溝3は幅50cm、深さ15cm、溝4は幅20cm、深さ10cmを測る。両者とも北流する。溝5は溝1に重なるような位置に検出した。幅35cm、深さ10cm。水流は西北方向である。埋土中から図版-14の10-11の土器が出土した。上層の状況から溝2と溝3～5は同一の遺構面にあるものと思われる。

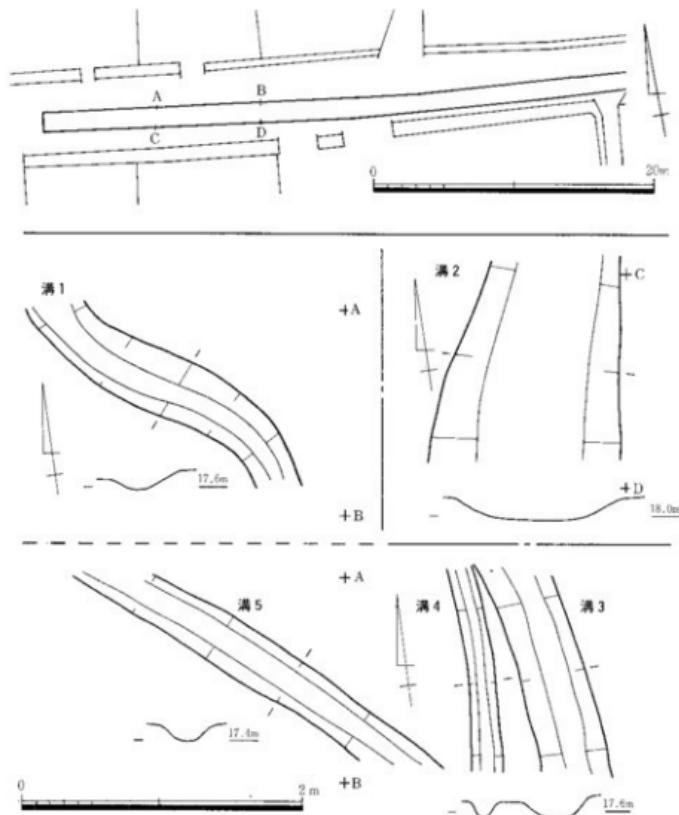


図-13 検出遺構（溝）

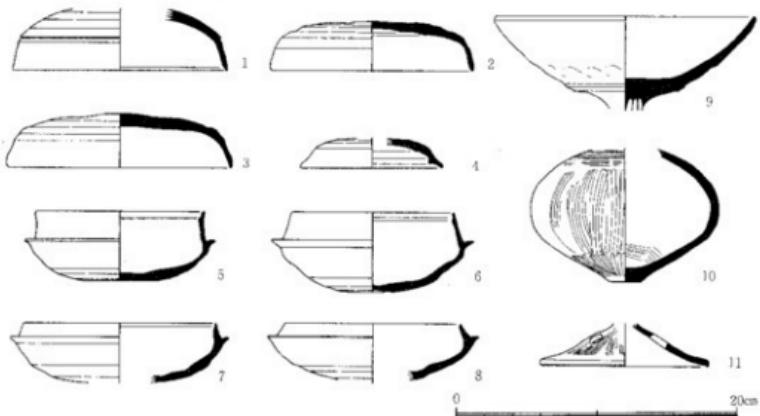


図-14 出土土器

3. 遺物

遺物は黒青灰色粘質土、暗青灰色砂質粘質土、各溝の埋土から出土した。図-14に図示したもののうち、1～8は須恵器、9～11は土師器である。

1. 4～9は遺物包含層（黒青灰色粘質土、暗青灰色砂質粘質土）からの出土である。6の外面底部には「+」の施朱がある。

2. 3は溝1埋土からの出土である。2の外面天井部には「-」のヘラ記号が刻されている。10は溝4埋土からの出土である。体部の1/3のみ残す。頸部を欠き、その形状はわからない。最大胴径13.4cm、残存高9.5cmを測る。色調は、外画は淡灰白色、内面は黒灰色を呈す。胎土はやや粗く、2mm以下の長石、石英など砂粒を多く含む。調整はタテ方向のヘラミがきである。胴部最上部には直線文、波状文、直線文を施す。

11は溝5埋土から出土した。直径は12cmを測る。明橙色を呈し、三方に円形の透かしがあく。

図-15は溝2埋土から出土した打製石槍。サヌカイト製で、全長12.3cm、最大幅3.6cm、最大厚1.1cmを測る。内面ともに加工が及び、刃部には細部調整を施す。

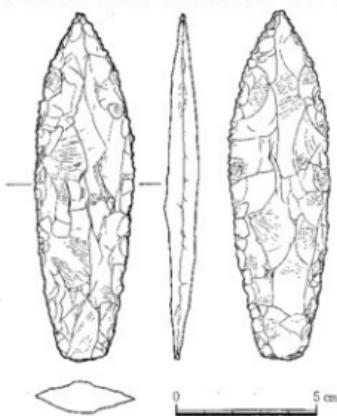


図-15 出土石器

第3章 大県南遺跡

86-1次調査

- ・調査地所在地 柏原市大県4丁目362-1 他
- ・調査期間 1986年11月7日～11月19日
- ・調査面積 40m²／568m²

1. はじめに

本調査は、柏原市建設部土木課による大県中道道路改良工事に伴う埋蔵文化財事前緊急発掘調査として、柏原市教育委員会が計画、実施したものである。

対象地は生駒山地の西麓に発達した扇状地上にある。標高は20m弱。聖武、孝謙天皇が『統日本紀』により知られる「河内六寺」のうちの一つである山下寺が、対象地の東に位置する。対象地もその寺域に含まれうるところである。対象地の現状は南半が里道、北半が葡萄畠である。

2. 遺構

調査は対象地に5カ所の調査区を設定し、人力により掘削した。工事に際しては、現地表に盛土を施すものであり、埋管等も行われないことから、地下への影響は少ないものと判断し、地下の状況を把握するのに必要最小限の調査区を設定するにとどめた。



図-16 調査地位置図（方位は真北）



図-17 調査区位置図

・1区 東西1.5m×南北6mの調査区。現地表下80cmで茶褐色砂礫土（遺物包含層）に達する。以下、橙褐色砂礫土、茶灰色粘質土、青緑灰色粘質土の順である。それぞれ20~30cmの厚さを持ち、水平に堆積する。調査区のほぼ中央で青灰白色砂土を埋土とする径50cm、深さ70cmの土塙を検出した。埋土中に土器が入っていたが、細片であり、時期等については不明。

・2区 2×5 mの調査区。層序、堆積状況については、1区と大きく差のあるものではない。淡灰褐色土、青褐色土から比較的多くの遺物が出土しているが、図示できないものが多い。現地表下170cm（青灰色粘質土面）まで掘削した。

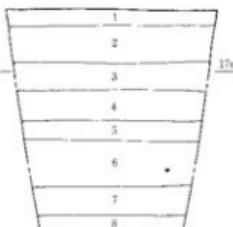
・3区 対象地のほぼ中央にある3m四方の調査区。表土以下、淡灰褐色土（第2層）から青緑灰色砂質粘質土（第7層）までが遺物包含層で、各層とも古墳時代を中心とする遺物を含む。各層ごとに遺構の検出に努めたが、認められなかった。現地表下330cmまで掘削した。

・4区 4×2 mの調査区。層序については3区と大差ない。現地表下210cmで茶灰色粘質土を穿つ一辺50~65cmを測る掘立柱掘形を2基検出した。深さは20~15cm程度を残すのみである。

2区東壁



3区東壁



2区

1. 黄土・基土
2. 淡灰褐色土
3. 黑褐色土
4. 茶褐色砂礫土
5. 青褐色粘質土
6. 青緑灰色粘質土

3区

1. 黄土
2. 淡灰褐色土
3. 黑褐色土
4. 茶褐色砂礫土
5. 淡灰褐色粘質土
6. 青緑灰色粘質土
7. 青灰白色砂質粘質土
8. 青褐色土
9. 茶褐色砂礫土

図-18 2・3区土層図

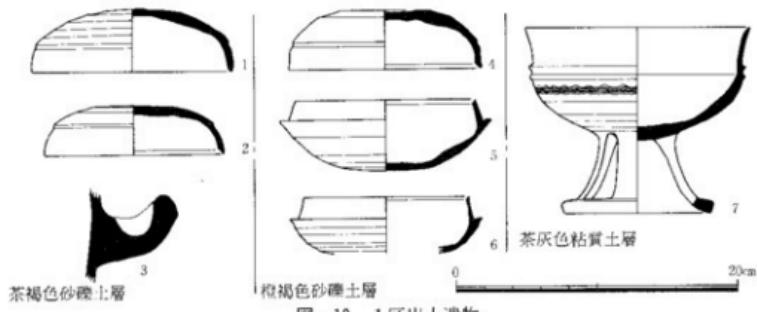


図-19 1区出土遺物

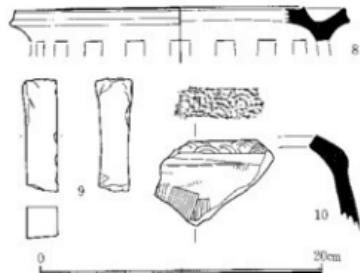


図-20 2区出土遺物

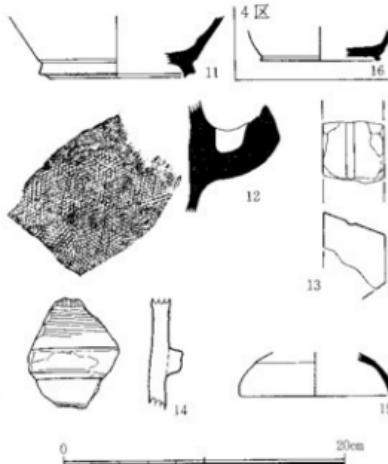


図-2 3・4区出土遺物

茶褐色細砂礫粘質土を埋土とする。遺物は含まれていなかった。

- 5区 対象地の南端にある1.5m四方の調査区。現地表下60cmまで盛土。以下、明茶色土が堆積し、現地表下130cmで地山に達す。

3. 遺物

7は無蓋高杯。体部外面に波状文を施す。脚部には三方に三角形の透かし窓を有する。

3、12は瓶の把手。12は外面に格子タタキを施す。8は円面鏡。台脚には方形の透かしがあく。10は移動式巣の釜口の部分。釜口端部外側に同心円文の圧痕が残る。9、13は砥石。13には溝状の使用痕が残る。図示できないほどの細片であったが、これらの他に製塩土器片、輪羽口片、鐵滓の出土があった。

調査の結果、対象地においては遺跡としての遺構の残りは良好なものを期待できそうにない。しかし遺物の出土量、内容からみると、鍛冶関係集団の居留地、集落の広がりは予想以上に大きなものであることを思わせる。

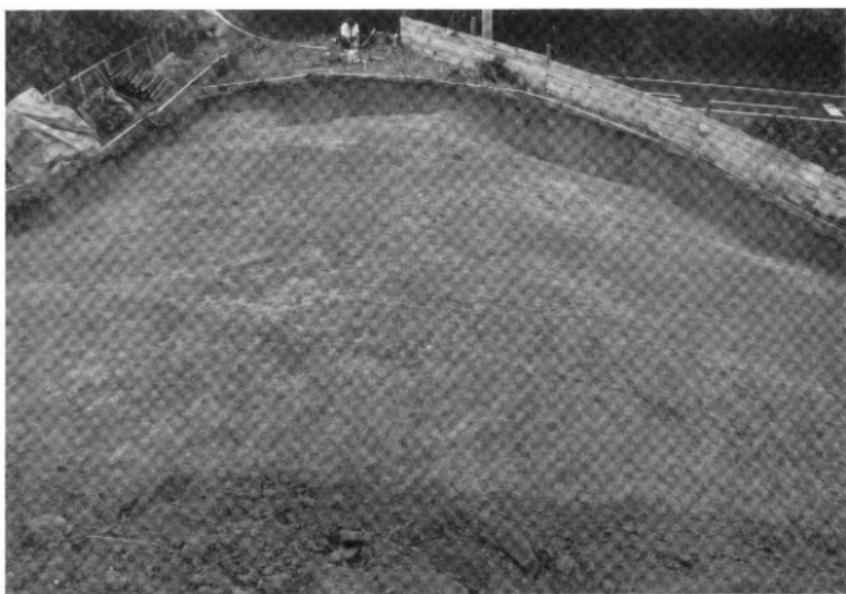
図 版



調査地全景（西北から）



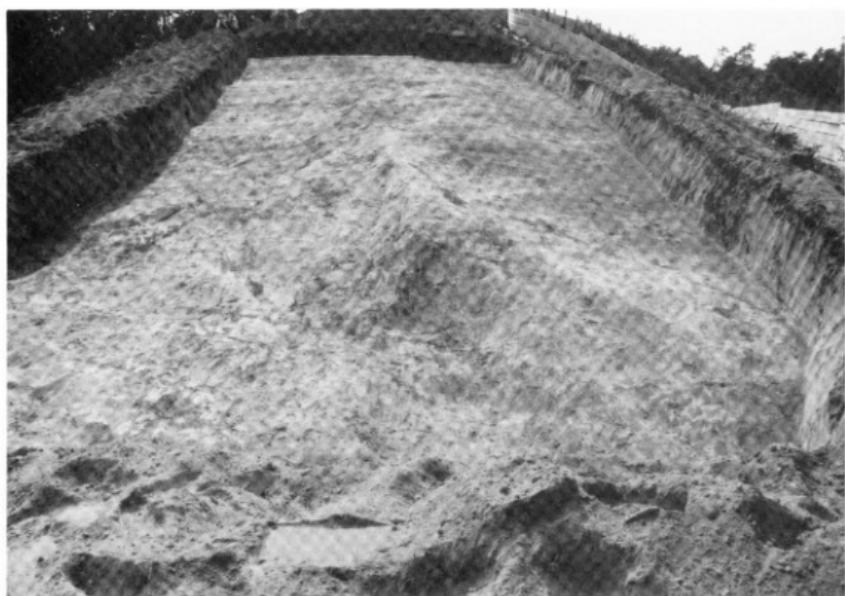
北試掘区 石の集積（南から）



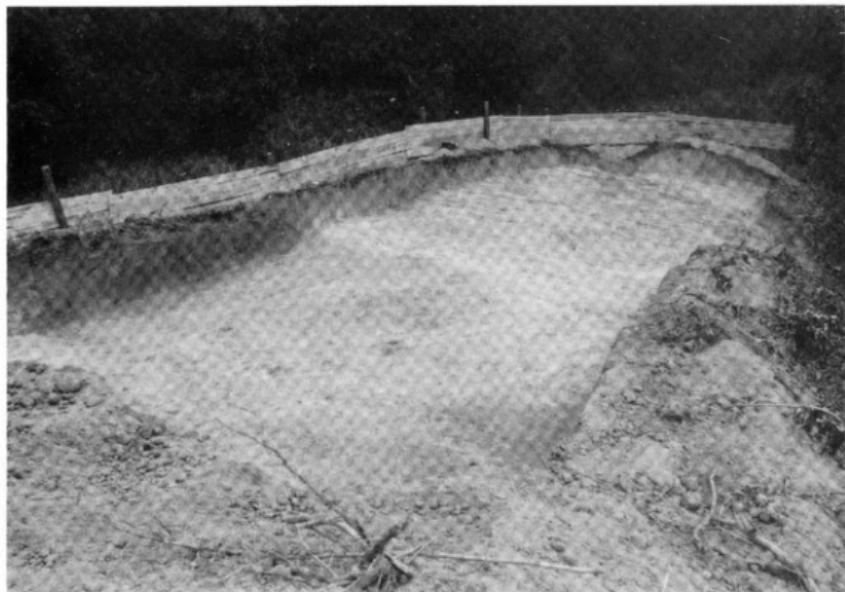
調査区西端（東から）



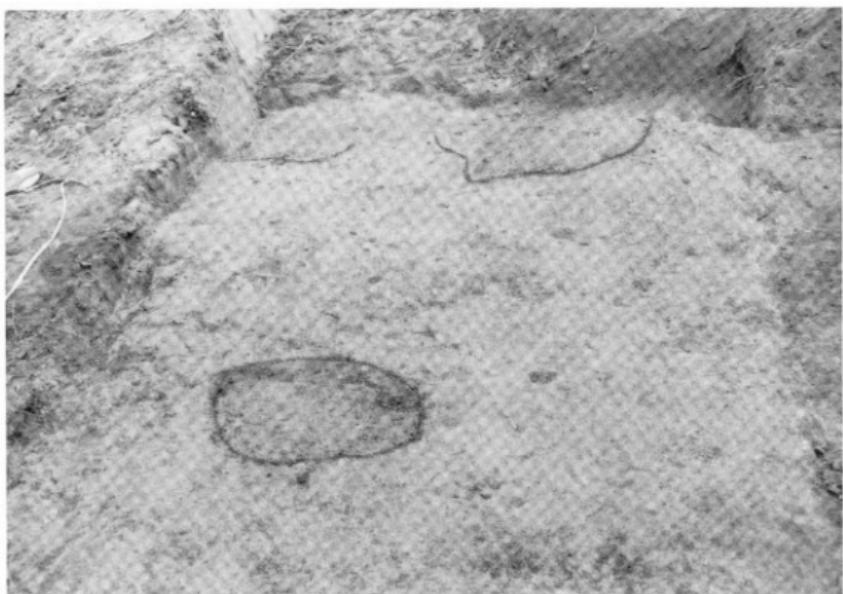
調査区最頂部（西から）



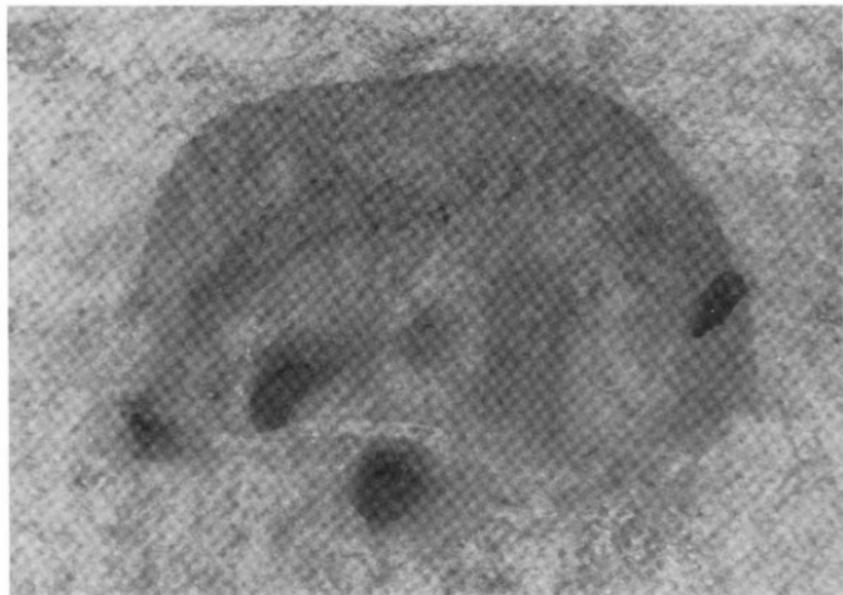
調査区東（東から）



調査区東端（西から）



土塙検出時（東から）



土塙完掘（西から）



調査地北半（南から）

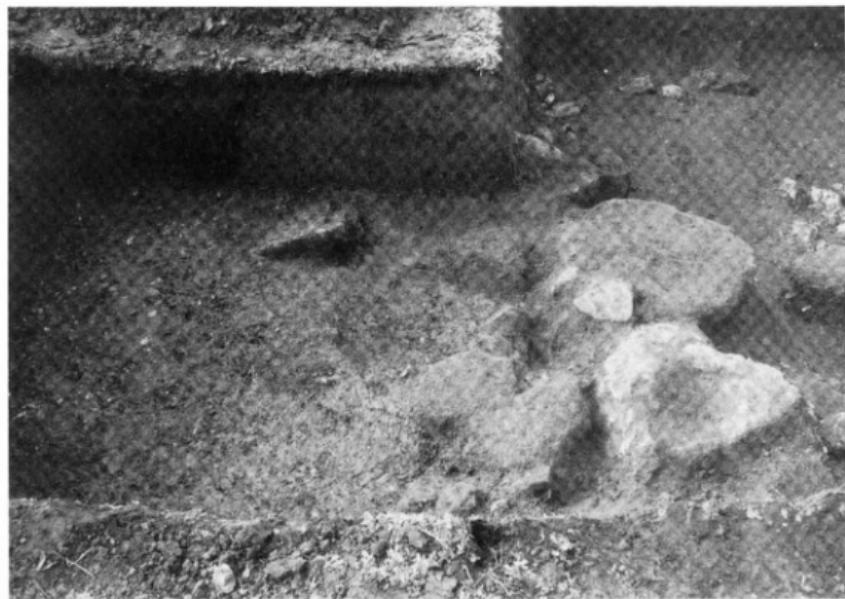


調査地南半（北から）

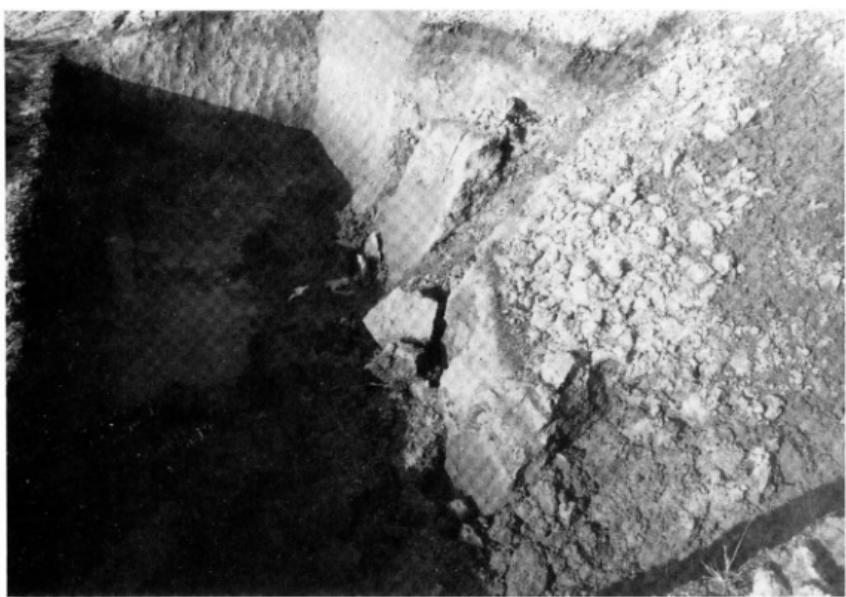
圖版 六 平尾山古墳群（86—5）



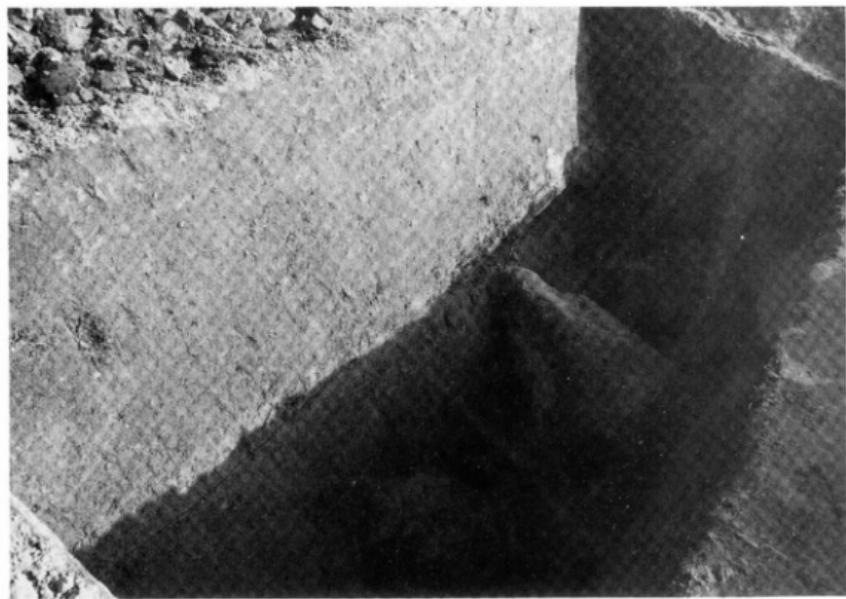
1区



2区

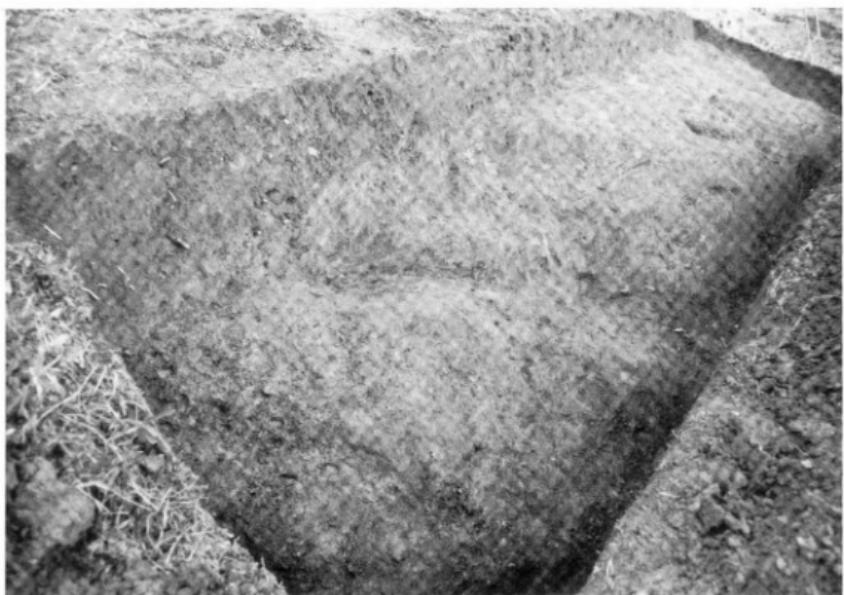


5区

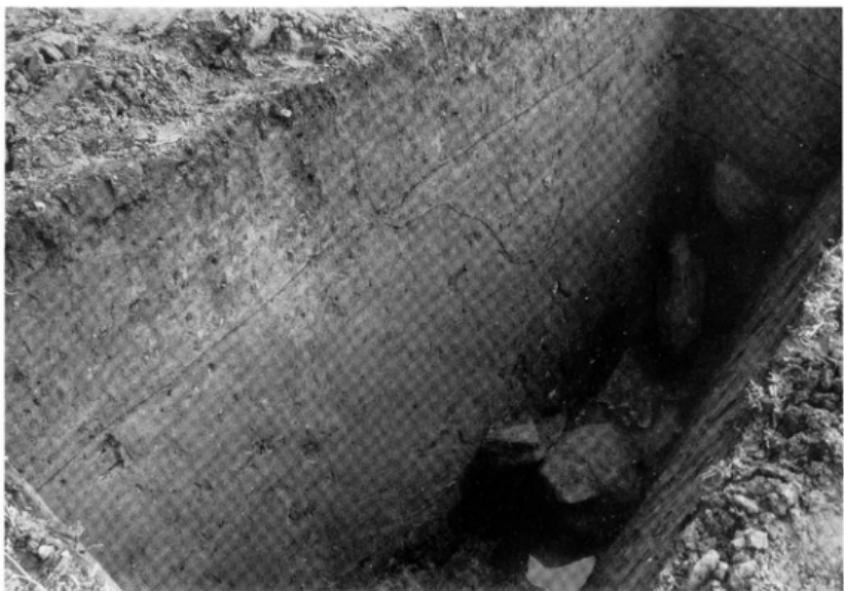


6区

図版八 平尾山古墳群(86-5)



7区



9区



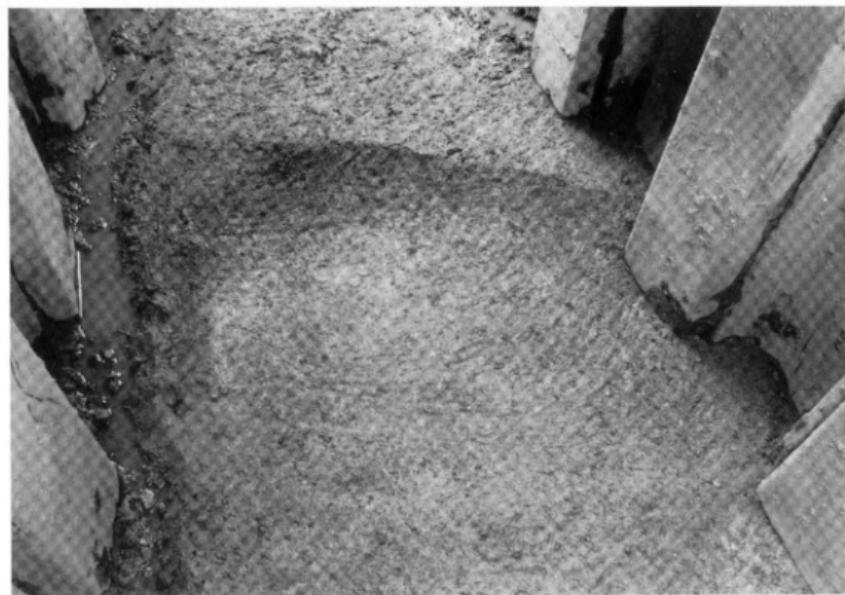
調査地近景（西から）



掘削最終面（西から）



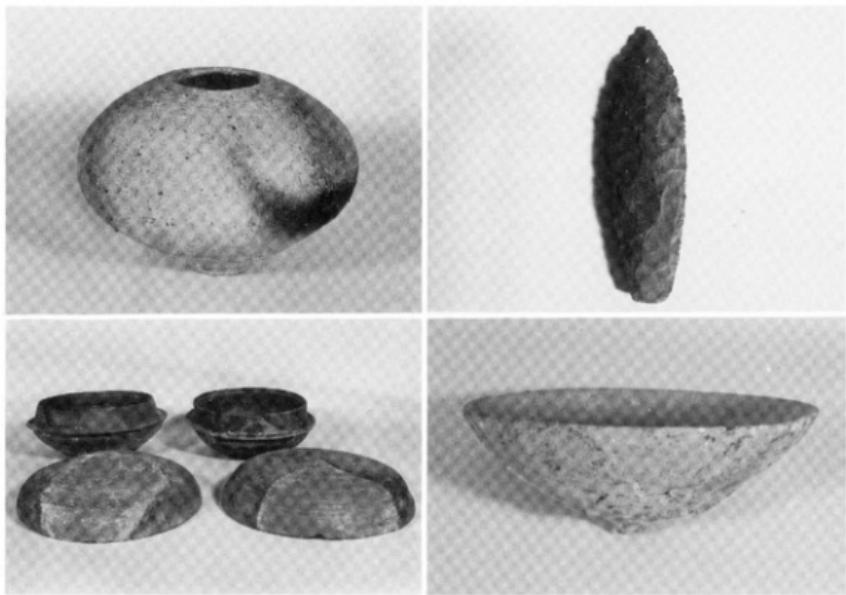
溝1（西から）



溝2（東から）



溝3・4・5（東から）



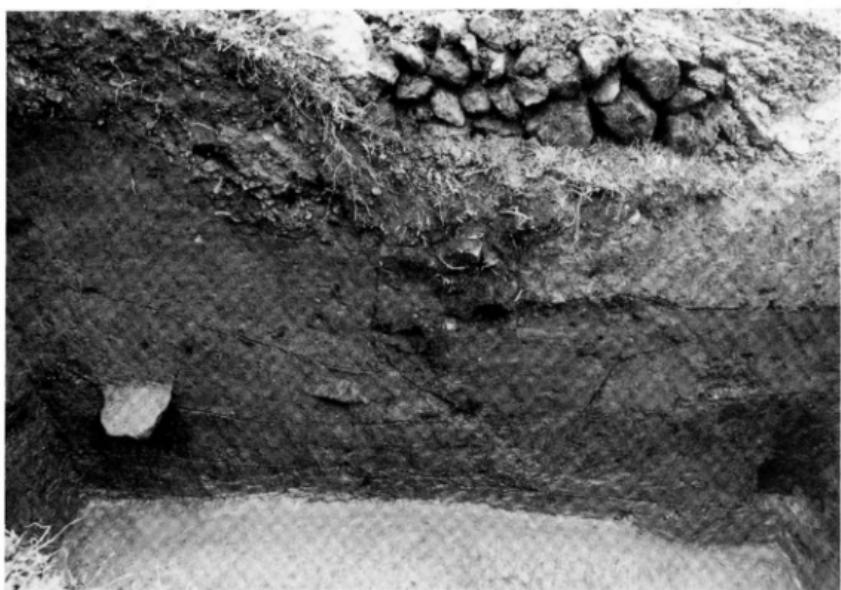
出土遺物



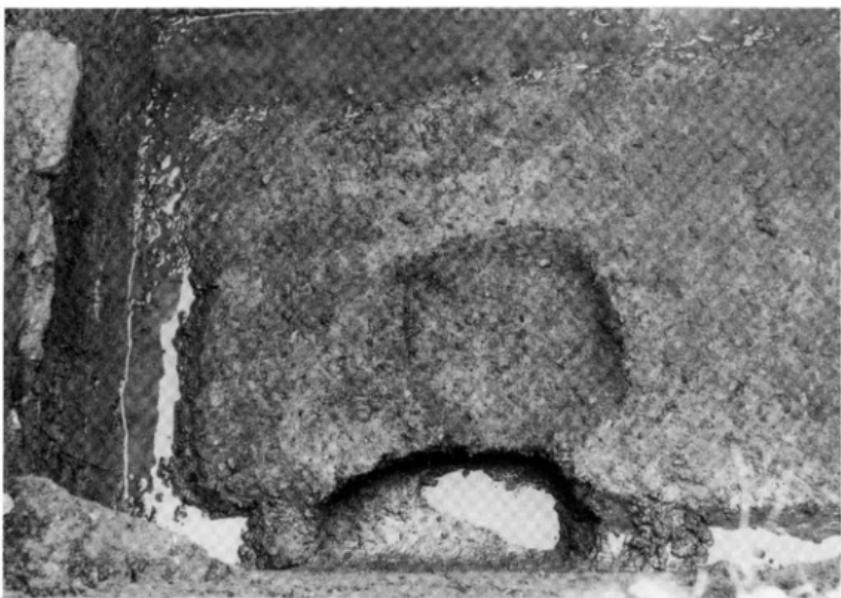
調査前（中央 南から）



同（同 北から）



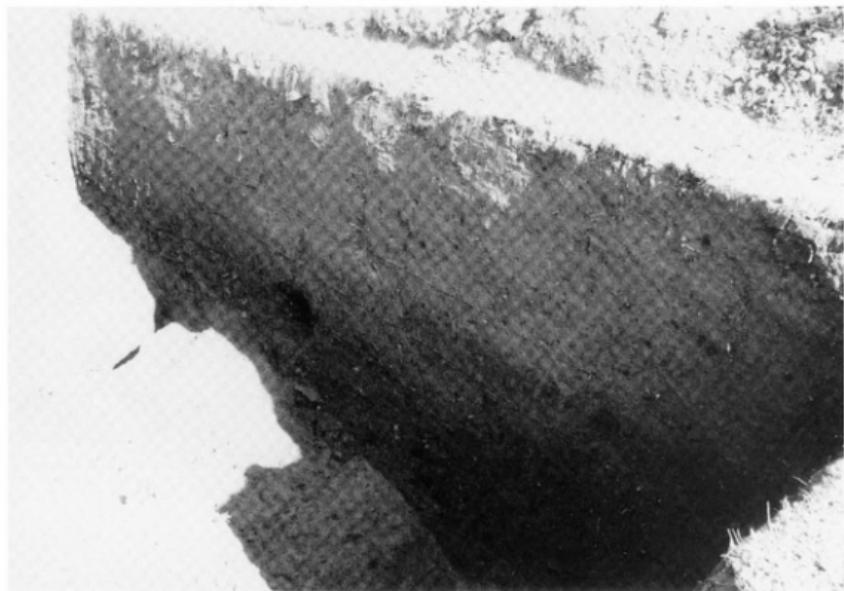
4区南壁



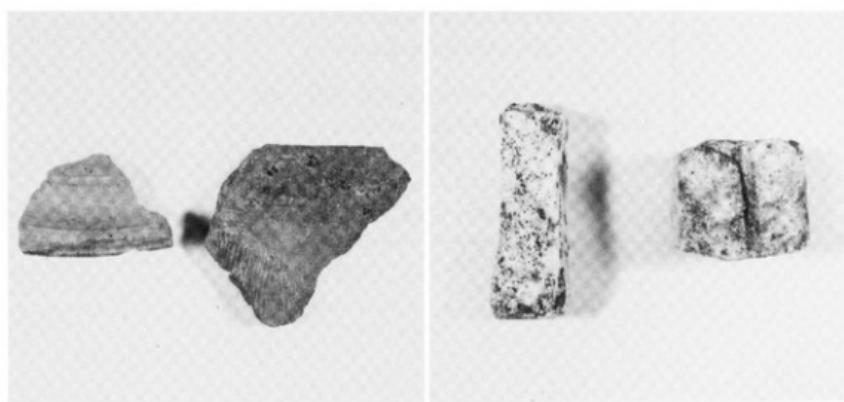
同 遺構（北から）



3区東壁



1区東壁



出土遺物

柏原市所在遺跡発掘調査機報

—1986年度公共事業に伴う—

編集・発行 柏原市教育委員会

〒582 大阪府柏原市安堂町1番43号

電話 (0729) 72-1501 内716

発行年月日 昭和62年3月31日

印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

